科目名【英】	心理学 Psychology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	木曜日	時　限	7

担当教員	静間　健人	実務者経験	

学習内容	１．科学的な心理学の研究法。　２．知覚、記憶、学習。　３．認知心理学。　４．社会心理学。 ５．臨床心理学。以上の側面について学ぶ。
到達目標	心理学の基礎知識を学び、人間の行動のメカニズムを理解できるようになること。 他者の意見を尊重しながら自身の意見を主張することができるようになること。 以上のことが期待される。

準備学習 時間外学習	授業内容の復習が必要
使用教材	教科書「図説　現代心理学入門（倍風館）」
留意点 備　考	適宜プロジェクターを使用しパワーポイントを呈示する。

成績評価	筆記試験８０%、小テスト・レポート２０%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		心理学1	心理学とは何か、心理学の諸領域 心理学には様々な領域があることを説明できる。
2		心理学2	心理学の歴史 心理学がどのように発展してきたのか、歴史を説明できる。
3		心理学3	心理学研究法 心理学研究のアプローチを説明できる。
4		心理学4	感覚・知覚 日常生活における感覚・知覚のはたらきを説明できる。
5		心理学5	記憶 人の記憶には、どのような種類・働きをしているのか説明できる。
6		心理学6	学習 人における新しい行動獲得の過程を説明できる。
7		心理学7	感情 感情の種類、感情のはたらきを説明できる。
8		心理学8	自己 人が自分をどのように認知し、自分らしさを獲得していくかを説明できる。
9		心理学9	対人関係 他者に対する態度や対人関係の形成について説明できる。
10		心理学10	コミュニケーション コミュニケーションと個人間の社会的影響について説明できる。
11		心理学11	集団 集団という社会的環境が人に与える影響を説明できる。
12		心理学12	成熟と成長 人が一生を通していかなる行動変化を見せるのか説明できる
13		心理学13	パーソナリティ パーソナリティ理論、測定の仕方を説明できる。
14		心理学14	ストレスとストレス対処 ストレスと適応について説明できる。
15		心理学15	まとめ

科目名【英】	解剖生理学１ Anatomy and Physiology 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	土曜日	時　限	7

担当教員	池　宏海	実務者経験	大阪歯科大学解剖学講座で大学院・助手・助教。講師として22年間従事。その後、池歯科医院を開設し地域歯科医療に従事ならびに専門学校の非常勤講師として解剖学・生理学の講義に従事し、現在に至る。

学習内容	医療に最も必要不可欠な基礎学問である解剖学・生理学を学ぶ。
到達目標	人体を形態的・機能的に追究し臨床に繋げられるようになる。 柔道整復師の国家試験に向かって知識レベルを上げる。

準備学習 時間外学習	1年生で学んだ解剖学・生理学の教科書を再度読み理解度を再認識する。国試の過去問題を多く解く。
使用教材	解剖学　生理学　（医歯薬出版）
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験のみで１００%評価

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		内分泌系 内分泌腺の形態と機能（１）	内分泌腺と外分泌腺との比較の説明ができる。下垂体の前葉・後葉から分泌されるホルモンを説明できる。神経分泌・下垂体門脈の特徴を説明できる。
2		内分泌系 内分泌腺の形態と機能（２）	松果体の形態と機能を説明できる。甲状腺と上皮小体を説明できる。
3		内分泌系 内分泌腺の形態と機能（３）	副腎・膵臓・精巣・卵巣から分泌されるホルモンを説明できる。
4		神経系 神経系の基礎	神経系の区分を説明できる。　脳室・脳脊髄液を説明できる。
5		神経系 中枢神経　脳	大脳（皮質・髄質）、間脳（視床・視床下部）について説明できる。
6		神経系 中枢神経　脳	脳幹（中脳・橋・延髄）・小脳について説明できる。
7		神経系 脳・脊髄	伝導路・脳脊髄神経について説明できる。。
8		神経系 自律神経	交感神経・副交感神経について説明できる。。
9		脈管系 総論　心臓	弁・心膜・伝導系について説明できる。
10		脈管系 動脈系	大動脈と各部の動脈について説明できる。
11		脈管系 静脈系・リンパ系・胎児循環	大静脈と各部の静脈を説明できる。胎児循環の特徴を説明できる。リンパ系（本幹、リンパ節）を説明できる。
12		内臓系 消化器系（１）	口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肛門について説明できる。
13		内臓系 消化器系（２）	肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜について説明できる。
14		呼吸器系（１）	ガス交換、外鼻・鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭について説明できる。
15		呼吸器系（２）	気管・気管支・肺・胸膜について説明できる。

科目名【英】	運動学 Kinesiology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	月曜日	時　限	5

担当教員	角田　晃啓	実務者経験	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施

学習内容	人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に重力の影響を受けた状態での運動について学習する。
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靭帯、筋について説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	期末試験１００％

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		運動学１	運動学の目的・運動の表し方・身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について理解できる。
2		運動学２	運動器・神経の構造と機能 運動器・神経の構造ならびに機能について理解できる。
3		運動学３	運動感覚・反射と随意運動 感覚の種類と反射、随意運動について理解できる。
4		運動学４	四肢と体幹の運動１【上肢帯・肩関節】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解できる。
5		運動学５	四肢と体幹の運動２【肘関節・前腕】 肘関節の構造・機能について理解できる。
6		運動学６	四肢と体幹の運動３【手関節・手】 手関節・手の構造・機能について理解できる。
7		運動学７	四肢と体幹の運動４【股関節】 股関節の構造・機能について理解できる。
8		運動学８	四肢と体幹の運動５【膝関節】 膝関節の構造・機能について理解できる。
9		運動学９	四肢と体幹の運動６【足関節・足部】 足関節・足部の構造・機能について理解できる。
10		運動学１０	四肢と体幹の運動７【体幹・脊柱・顔面・頭部１】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる。
11		運動学１１	四肢と体幹の運動８【体幹・脊柱・顔面・頭部２】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解できる。
12		運動学１２	姿勢 基本的な立位姿勢について理解できる。
13		運動学１３	歩行 歩行についての基本的な事項を理解できる。
14		運動学１４	運動発達 運動発達について理解できる。
15		運動学１５	運動学習 運動学習の方法・過程について理解できる。

科目名【英】	整形外科学 Orthopedic Surgery			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	土曜日	時　限	6

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	骨・関節・筋・靭帯・脊髄・神経の解剖・生理を理解した上で脊柱・骨盤・四肢（運動器）の外傷・障害、先天異常、腫瘍、変性疾患、骨系統疾患の診断法・治療法・後遺症を学ぶ。
到達目標	整形外科学を通して、人体の解剖生理を理解し運動器全体の検査法、治療法、後遺症を熟知し、柔道整復学による治療が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解する。

準備学習時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「整形外科学」（南江堂）、配布プリント
留意点備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		運動器の基礎知識②	筋　靭帯　腱　の基礎知識、運動器の科学　の　理解　と　習得
2		整形外科診察法②	跛行　拘縮・強直　知覚　反射　の　理解　と　習得
3		整形外科検査法②	電気生理学的検査・関節鏡検査・超音波検査の診方　の　理解　と　習得
4		整形外科的治療法②	観血的治療　の　意味　と　意義　と　方法　の　理解　と　習得
5		骨・関節損傷総論②	小児骨折・開放骨折・疲労骨折・病的骨折　の　診断・治療　の　理解　と　習得
6		スポーツ整形外科総論	スポーツ整形外科　の　役割　と　位置づけ　の　理解　と　習得
7		感染性疾患②	ブロディー骨膿瘍・骨関節結核・化膿性関節炎　の　理解　と　習得
8		骨および軟部腫瘍②	良性骨腫瘍の　基礎　診断　治療法の　理解　と　習得
9		変形性関節症	変形性関節症の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
10		結晶誘発性関節炎	結晶誘発性関節炎の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
11		血清反応陰性脊椎関節症	血清反応陰性脊椎関節症の　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
12		骨粗鬆症②	骨粗鬆症の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
13		先天性の骨・軟骨疾患②	軟骨無形性症・モルキオ病・骨形成不全症の　原因　病態　症状　診断　治療法の理解　と　習得
14		骨端症①	骨端症の総論・ペルテス病・オスグッド病・ブラント病の　原因　　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
15		四肢循環障害	末梢動脈・静脈疾患の　病態　原因　　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得

科目名【英】	病理学概論 Introduction of Pathology			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	5

担当教員	西浦　弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教8年間

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する
到達目標	国家試験の正答率６０％を目指す

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	病理学概論　改定版3版（医歯薬出版）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備　考	授業中静粛にする

成績評価	試験１００％

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		I. 病理概論・病因・国家試験問題解説・II. 先天異常⇔後天性疾患－1	授業内容（病理解剖と通常・特殊・免疫染色）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
2		III. 循環障害-1	授業内容（血液やリンパ循環の阻害が原因の虚血・血栓・浮腫）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
3		IV. 細胞障害-1	授業内容（細胞の退行性病変・萎縮・変性・壊死が原因の炎症系と免疫系への影響）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
4		V. 増殖と修復-1	授業内容（組織の回復機構と回復しない増幅性と特殊性炎症）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
5		VI. 炎症－１	授業内容（炎症関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
6		VI. 炎症－3	授業内容（炎症細胞の修復の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
7		VII. 免疫－１	授業内容（免疫関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
8		VII. 免疫－3	授業内容（免疫細胞の炎症の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
9		VIII. 腫瘍-1	授業内容（良性腫瘍と悪性腫瘍の差）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
10		I. 病因・II. 先天異常⇔後天性疾患-3	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。
11		VI. 炎症-5	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。
12		VII. 免疫-5	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。
13		VIII. 腫瘍-3	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。
14		総まとめ-1	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。
15		総まとめ-3、試験	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。

科目名【英】	臨床柔整学応用各論１ Judo Therapy Practical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水曜日	時　限	5

担当教員	正木　大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。

学習内容	上腕骨骨折、前腕骨遠位端部骨折の各論、定型的転位、応用固定学、臨床を学ぶ。
到達目標	上腕骨骨折、前腕骨遠位端部骨折の国家試験問題が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）参照
使用教材	柔道整復理論　改訂第6版
留意点 備　考	

成績評価	100%　定期試験評価

授業計画 【テーマ・内容･目標】			
1		柔道整復師の臨床と介護予防	柔道整復師の臨床、医接連携、介護予防通所介護の機能訓練士の業務が理解できるようになる。
2		上腕骨近位端部骨折	上腕骨骨頭部骨折の発生機序、症状、固定法、後療法、予後、肩関節の構造と機能などが説明できる。
3		上腕骨近位端部骨折	上腕骨解剖頚骨折の発生機序、症状、固定法、後療法、予後などが説明できる。
4		上腕骨近位端部骨折	上腕骨外科頚骨折の発生機序、症状、鑑別診断などが説明できる。
5		上腕骨近位端部骨折	上腕骨外科頚骨折の固定法、骨癒合、後療法、予後などが説明できる。
6		上腕骨近位端部骨折	上腕骨大結節、小結節単独骨折、近位骨端線離開の発生機序、整復、固定法、合併症が理解できるようになる。
7		上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の概説、発生機序、症状、合併症、骨片転位理解ができるようになる。
8		上腕骨骨幹部骨折	上腕骨骨幹部骨折の整復法、固定法、後遺症、骨癒合、予後が理解できるようになる。
9		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の特徴、発生機序、分類、骨折線、骨片転位が理解できるようになる。
10		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の症状、受診時の注意事項、Ｘ線による評価が理解できるようになる。
11		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の整復、固定、後療法、Fat pad sign、肘関節後方脱臼との鑑別が理解できるようになる。
12		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨顆上骨折の後遺症、フォルクマン拘縮、骨化性筋炎が理解できるようになる。
13		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨外顆骨折の特徴、発生機序、骨折線と骨片転位、症状、整復法、固定法、後遺症が理解できるようになる。
14		上腕骨遠位端部骨折	上腕骨内側上顆骨折の特徴、発生機序、骨片転位、症状、整復法、固定法、後遺症が理解できるようになる。
15		試験解答	前期筆記試験解答と解説

科目名【英】	臨床柔整学　応用各論２ Clinical Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火曜日	時　限	3.4

担当教員	上田　益嗣	実務者経験	1995年7月～2024年3月　接骨院に所属し柔整施術および鍼灸院にて鍼灸施術や鍼灸柔整の往療を行う

学習内容	柔道整復術に必要な下肢の外傷や障害を学ぶ。また、臨床推論を構築するための統合的知識を学ぶ。 柔道整復師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	柔道整復師としての観点で臨床推論、鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、 かつ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・運動学の予習が必要。一般臨床医学や整形外科学との関連を復習する。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	副教材として解剖学・運動学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	原則、単元毎に小テストを実施。期末試験97%・小テスト3%で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		オリエンテーション 下腿骨近位端部骨折１	評価基準・講義に関する略号・小テスト。前回の復習。下腿骨近位端部【下腿骨近位端部の解剖・アライメント・　分類】下腿骨近位端部の構造・骨折分類の説明ができる
2		下腿骨近位端部骨折２	小テスト。前回の復習。下腿近位端骨折【顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折・脛骨粗面骨折】顆部骨折・顆間隆起骨折・PCL付着部裂離骨折・脛骨粗面骨折について説明ができる
3		下腿骨近位端部骨折３	小テスト。前回の復習。下腿近位端骨折【腓骨頭単独骨折・Segond骨折】・下腿骨幹部骨折。　腓骨頭単独骨折・Segond骨折・下腿骨骨幹部骨折の発生機序について説明ができる
4		下腿骨骨幹部骨折１	小テスト。前回の復習。脛骨骨幹部【脛骨単独＆脛腓両骨骨折の転位・症状・治療法・後遺症】脛骨単独＆脛腓両骨骨折について説明ができる
5		下腿骨骨幹部骨折２	小テスト。前回の復習。腓骨骨幹部骨折＆下腿骨顆上骨折【分類・発生機序・転位・症状・　治療法など】。腓骨骨幹部骨折＆下腿骨顆上骨折について説明できる。
6		下腿骨骨幹部骨折３	小テスト。前回の復習。下腿骨疲労骨折【分類・発生機序・転位・症状・治療法など】。　下腿骨疲労骨折について説明できる。
7		下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折１	小テスト。前回の復習。足関節部の解剖、バイオメカニクス・下腿骨果部【冠名骨折、部位別分類など】。足関節部の解剖や下腿果部骨折の分類を説明することが出来る。
8		下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折２	小テスト。前回の復習。下腿骨遠位端部骨折【ラウゲ＝ハンセン分類の転位・症状など】。　下腿遠位端部および足関節の脱臼骨折のラウゲ＝ハンセン分類による説明ができる。
9		下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折３	小テスト。前回の復習。下腿骨遠位端部骨折【受傷外力による分類の症状・治療法など】。　下腿遠位端部および足関節の脱臼骨折の受傷外力による分類での説明ができる。
10		足・足趾骨骨折１	前回の復習・小テスト・距骨骨折【距骨の解剖・各骨折の分類、発生機転、ホーキンス分類、　症状、治療法】。距骨骨折について説明することができる。
11		足・足趾骨骨折２	前回の復習・小テスト・踵骨骨折【踵骨の解剖、発生機転、分類、症状、ベーラー角、治療法、留意点、予後】。踵骨骨折について説明することができる。
12		足・足趾骨骨折３	前回の復習・小テスト。足根骨骨折【舟状骨骨折＆立方骨骨折＆楔状骨骨折の分類・発生機序・症状・治療法】舟状骨骨折・立方骨骨折・楔状骨骨折について説明ができる。
13		足・足趾骨骨折４	前回の復習・小テスト・中足骨骨折治療法、予後、足趾、趾骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法などを説明することができる。
14		股関節脱臼１	股関節部の【解剖･下肢のアライメント･バイオメカニクス】 股関節脱臼【後方脱臼の発生機転･症状】に関して説明ができる
15		試験解説	前期試験解説

科目名【英】	臨床柔整学　応用各論３ Clinical Judo Therapy Adovanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水曜日	時　限	6

担当教員	金釘　直幸	実務者経験	1997年9月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復術を行う。

学習内容	柔道整復学における前腕部の骨折、脱臼、軟部組織損傷及び上腕部の軟部組織損傷に対する病態、症状、治療法について学ぶ。
到達目標	症状や発生機序を理解し傷病の決定、治療法の決定ができる。臨床現場において実際に活用できるレベルかつ、柔整国家試験に対応できるレベルに到達できる。

準備学習 時間外学習	解剖学（特に筋学、骨学）の予習復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験１００％

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		前腕部損傷１	前腕部の解剖と機能を理解、説明できる。前腕骨骨幹部骨折の概要を説明できる。
2		前腕部損傷２	橈骨骨幹部骨折の概説、発生機序、転位、症状、が説明できる。
3		前腕部損傷３	橈骨骨幹部骨折の合併症、治療法、後遺症が説明できる。ガレアジ骨折の病態の説明ができる。
4		前腕部損傷４	尺骨骨幹部骨折の概説、発生機序、症状、合併症、治療法が説明できる。
5		前腕部損傷５	モンテギア骨折の概説、分類、治療法、後遺症の説明ができる。
6		前腕部損傷６	橈尺両骨骨幹部骨折の概説、発生機序、転位、症状、合併症、の説明ができる。
7		前腕部損傷７	橈尺両骨骨幹部骨折の治療法、後遺症、難治理由の説明ができる。
8		前腕部損傷８	橈骨近位端部骨折の概説、発生機序、骨折型、症状、合併症、治療法の説明ができる。
9		前腕部損傷９	肘頭骨折の概説、発生機序、骨折線と骨片転位、症状、合併症、治療法の説明ができる。
10		前腕部損傷１０	橈骨神経損傷、尺骨神経損傷の概説、発生機序、症状、治療法の説明ができる。
11		上腕部（肘関節部）損傷１	肘関節側副靭帯損傷の概説、発生機序、症状、治療法の説明ができる。
12		上腕部（肘関節部）損傷２	野球肘の分類、発生機序、症状、治療法の説明ができる。
13		上腕部（肘関節部）損傷３	後外側回旋不安定症の概説、発生機序、症状、検査法、治療法の説明ができる。
14		上腕部（肘関節部）損傷４	橈骨神経損傷・尺骨神経損傷の概説、症状などの説明ができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名【英】	臨床柔整学　応用各論４ Clinical Judo Therapy Advanced　4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火曜日	時　限	6

担当教員	姫　将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012－2014接骨院勤務 2014－東洋医療専門学校専科教員　現在に至る

学習内容	前腕部、手関節部、手指部の軟部組織損傷を学び、柔道整復師の役割について考える。
到達目標	１．疾患概念を説明できる。 ２．各損傷におけるポイントを説明できる。 ３．前腕部、手関節部、手指部の解剖と機能について説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖に対して不安であれば予習をしておくこと。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第7版（南江堂）/　PC　/　配布資料
留意点 備　考	パワーポイントを使用するため色覚異常など配慮が必要であれば申し出ること。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		前腕部軟部組織損傷１	前腕コンパートメント症候群 コンパートメント症候群の病態と注意点を説明できる。
2		前腕部軟部組織損傷２	前腕部・手関節部腱鞘炎【解剖・症状・治療】 腱交叉症候群、ドケルバン病の疾患概念を説明できる。
3		手関節軟部組織損傷１	TFCC損傷【解剖・分類・症状・治療】 本症の疾患概念を説明できる。
4		手関節軟部組織損傷２	骨関節疾患【概要・症状・分類・治療】 キーンベック病、マーデルング変形の疾患概念を説明できる。
5		末梢神経障害１	絞扼性神経障害・上肢【概要・解剖】 上肢における神経の走行の特徴を説明できる。
6		末梢神経障害２	正中神経障害①【解剖・分類・概要】 正中神経障害を分類することができる。
7		末梢神経障害３	正中神経障害②【概要・症状・検査法・治療】 手根管症候群の症状を説明することができる。
8		末梢神経障害４	尺骨神経障害①【解剖・分類・概要】 尺骨神経障害を分類することができる。
9		末梢神経障害５	尺骨神経障害②【概要・症状・検査法・治療】 ギヨン管症候群の症状を説明することができる。
10		手・手指部軟部組織損傷１	指側副靱帯損傷【概要・症状・検査法・治療】 本損傷の保存療法の限界を説明できる。
11		手・手指部軟部組織損傷２	ロッキングフィンガー、弾発指【概要・症状・治療】 ロッキングフィンガーと弾発指の概要を説明できる。
12		手・手指部軟部組織損傷３	手指の変形【概要・メカニズム】 手指変形を起こす原因を説明できる。
13		検査法	上肢における徒手検査法
14		前期まとめ	前期ポイント整理
15		総復習	前期範囲の内容補填および復習

科目名【英】	柔整コンディショニング実習１ Judo Therapy Conditioning Skill Practice 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	7

担当教員	岩本　暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月　接骨院に所属し施術をおこなう。

学習内容	柔道整復師において必要となる基礎包帯（下肢包帯、冠名包帯、肋骨骨折の固定法など）を学ぶ。
到達目標	実技試験までにすべての包帯法の走行を覚え、手早く綺麗に巻けるようになる。

準備学習 時間外学習	動画視聴を行い、走行の復習をしておく。
使用教材	4.5.6裂包帯、3.8ホワイトテープ、三角巾、さらし、厚紙副子（学校で準備）、配布プリント
留意点 備　考	包帯用ファイルを持参し、プリントを挟んでいく。

成績評価	実技試験90%、筆記試験10%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		足部の包帯１	【足関節　上行麦穂帯】 上行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。
2		足部の包帯２	【足関節　下行麦穂帯】 下行麦穂帯の走行を覚え、巻くことができる。
3		足部の包帯３	【鐙帯】 鐙帯の走行を覚え、巻くことができる。
4		足部の包帯４	【踵離開亀甲帯　＋　三節帯】 離開亀甲帯の圧のかけ方を知る。
5		下腿の包帯	【下腿の包帯】 下腿包帯の走行を覚え、巻くことができる。
6		膝部の包帯	【膝関節離開亀甲帯】【膝関節集合亀甲帯】 膝関節亀甲帯の走行を覚え、巻くことができる。
7		復習	今までの包帯法を振り返り巻くことができる。
8		冠名包帯１	【ヴェルポー包帯】 ヴェルポー包帯の走行を覚え、巻くことができる。
9		冠名包帯２	【ジュール包帯】 ジュール包帯の走行を覚え、巻くことができる。
10		冠名包帯３	【デゾー包帯（簡易ver.）】 デゾー包帯（簡易ver.）の走行を覚え、巻くことができる。
11		鎖骨骨折の固定	【セイヤー絆創膏固定】 セイヤー絆創膏固定法の走行を覚え、固定の役割を知る。
12		肋骨骨折固定１	【さらし厚紙副子固定法】 肋骨骨折の固定法を知り、走行を覚える。
13		筆記試験	【筆記試験】 3年次に向け包帯固定の必修内容を覚える。
14		総復習	【実技試験に向けての総復習】 実技試験に合格できるように試験を想定した練習をする。
15		肋骨骨折固定２	【屋根瓦状固定】 肋骨骨折の固定法を知り、走行を覚える。

科目名【英】	柔整コンディショニング実習２ Judo Therapy Conditioning Skill Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	月曜日	時　限	3.4

担当教員	山田　靖典　／　堀口　晃一	実務者経験	（山田）2001年～2008年まで整形外科勤務 （堀口）整骨院勤務　平成8年3月～平成17年7月

学習内容	ストレッチングを通じて患者とのコミュニケーション・接し方について学ぶ また解剖学として筋肉を理解する
到達目標	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナー資格取得

準備学習 時間外学習	資格取得にむけた自主練習
使用教材	特定非営利活動法人日本ストレッチング協会ストレッチングパートナーテキスト
留意点 備　考	出席率１００%により受講資格が発生する

成績評価	座学２０問（４択問題）６０%以上の正答率。実技３題の評価

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		ストレッチングについて	ガイダンス。Ｐ２～１０　ストレッチングについて学ぶ。
2		ストレッチング下肢	大腿部前面後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
3		ストレッチング下肢	大腿内転筋群・股関節前面・後面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
4		ストレッチング下肢・体幹	股関節後面・胸部のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
5		ストレッチング体幹・バリエーション	背部・上腕前面のストレッチングを理解し、実施できるようになる。
6		頸部・肩部筋肉の触診	僧帽筋・肩甲挙筋・胸鎖乳突筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
7		上腕後面・前面の筋肉の触診	上腕三頭筋・上腕二頭筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
8		背部・腱板の筋肉の触診	広背筋・棘上筋・棘下筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
9		前腕の筋肉の触診	前腕伸筋群と屈筋群の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
10		臀部の筋肉触診	大殿筋・中殿筋・小殿筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
11		股関節前面の筋肉触診	腸腰筋/大腿四頭筋・脊柱起立筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
12		股関節後面の筋肉触診	ハムストリングスの起始停止にキネシオテーピングを貼付。
13		下腿後面の筋肉触診	腓腹筋・ヒラメ筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
14		下腿前面の筋肉触診	前脛骨筋・長母指伸筋・長趾伸筋の起始停止にキネシオテーピングを貼付。
15		前期試験	

科目名【英】	柔道整復実技１ Judo Therapy Practical Training 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	木曜日	時　限	7

担当教員	堀口 晃一・本田 珠美	実務者経験	整骨院勤務　平成8年3月～平成17年7月(堀口) 2022年4月から付属接骨院にて勤務(本田)

学習内容	実技マニュアルを使い軟部組織損傷を理解し各検査法を学ぶ。
到達目標	徒手検査法を理解し動作ができるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の検査法
使用教材	実技マニュアル・柔道整復学(理論編・実技編)
留意点 備　考	実技のためKC・白Ｔシャツ・短パン

成績評価	実技試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		導入	国家試験の問題を解き、実技の授業の必要性を理解する。
2		体表解剖	身体各部のランドマーク・大結節・結節間溝・足背動脈・感覚検査を行うことができる。
3		徒手検査１	腱板損傷・上腕に頭金損傷の疼痛誘発メカニズムを理解する
4		徒手検査２	腱板損傷検査法（ペインフルアーク、インピンジメント、ドロップアームテスト）を行うことができる。
5		徒手検査３	上腕二頭筋検査法（ヤーガソン・スピードテスト・エルボーフレクションテスト）を行うことができる。
6		徒手検査４	大腿四頭筋・ハムストリングス肉離れの疼痛誘発メカニズムを理解する
7		徒手検査５	大腿四頭筋検査法（背臥位、座位、腹臥位）を行うことができる。
8		徒手検査６	ハムストリングス（背臥位、腹臥位）を行うことができる。
9		徒手検査７	ハムストリングス（背臥位、腹臥位）を行うことができる。
10		徒手検査８	側副靭帯・半月板・十字靭帯損傷の疼痛風発メカニズムを理解できる
11		徒手検査９	膝関節検査法２（前方引き出し、ラックマン、Ｎーテスト）を行うことができる。
12		徒手検査１０	膝関節検査法３（マックマレーテスト、アプレー圧迫、ワトソンジョーンズ）を行うことができる。
13		徒手検査１１	下腿三頭筋（誘発テスト、トンプソンテスト）を行うことができる。
14		徒手検査１２	足関節（前方引き出し、内反ストレステスト）を行うことができる。
15		徒手検査１３	前期振り返り・総復習

科目名【英】	柔道整復実技２ Judo Therapy Practical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水曜日	時　限	7

担当教員	金釘直幸	実務者経験	１９９７年９月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術を行う。

学習内容	柔道整復理論を理解した上で脱臼整復を学習する。
到達目標	実習を通じて整復法、固定法をできるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論を復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、配布プリント
留意点 備　考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	実技の期末試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		肩関節前方脱臼	コッヘル法で整復できるようになる。
2		肩関節前方脱臼	コッヘル法、ヒポクラテス法の違いを知り整復できるようになる。
3		肩関節前方脱臼	ヒポクラテス法で整復できるようになる。
4		肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
5		肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼を整復できるようになる。
6		肘内障	肘内障が整復できるようになる。
7		顎関節脱臼	口外整復法ができるようになる。
8		顎関節脱臼	口内法で整復できるようになる。
9		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼を整復できるようになる。
10		顎関節前方脱臼	口内法・口外法で整復できるようになる。
11		肩関節脱臼	コッヘル法・ヒポクラテス法の整復ができるようになる。
12		肘関節脱臼	肘関節後方脱臼・肘内障の整復ができるようになる。
13		顎関節脱臼	口外法・口内法の整復ができるようになる。
14		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の整復法ができるようになる。
15		試験の振り返り	全ての項目の振り返りを行い、整復法ができるようになる。

科目名【英】	臨床実習２ Clinical Training 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	木曜日	時　限	5・6

担当教員	姫　将司　／　岩本　暁美	実務者経験	（姫）2010-2012整形外科で勤務、2012－2014接骨院で勤務 （岩本）2007-2010接骨院で勤務

学習内容	医療者が臨床で必要なマナーや倫理、診察法、症例レポートの作成方法を学ぶ。 医療面接や接遇の実技を行う。
到達目標	医療人としての身嗜みを整えや接遇としての患者対応をすることができる。 一般的な内科疾患、整形外科疾患を視診から判断することができる。 外来患者の症例記録から症例レポートを作成することができる。

準備学習 時間外学習	実習内容について各自調べること。また、1年次の学習内容を復習しておくことが望ましい。
使用教材	教科書『柔道整復学　理論編』（東洋療法学校協会編）　配布プリント
留意点 備　考	必要に応じて一般臨床医学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	出席率　及び　臨床実習レポートにて評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		ガイダンス	臨床実習の意義、目的、評価を学ぶ。 適切な身だしなみを実践できる。
2		医療倫理	インフォームド・コンセント、守秘義務、医療過誤、衛生観念（ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌﾟﾘｺｰｼｮﾝ）を学ぶ。 インフォームドコンセントなど学んだことを説明できる。
3		診察法１	医療面接、視診、聴診、打診、触診の意義を学ぶ。 医療面接で重要なこと、視診・聴診・触診での注意事項を答えることができる。
4		診察法２	医療面接の意義、目的、方法を学ぶ。 情報収集、良好な医療従事者-患者関係を説明できる。
5		診察法３	医療面接に関する基本的な考え方と技能を学ぶ。 適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀を実践し、病歴情報を収集することができる。
6		診察法４	視診・聴診・打診・触診の方法を学ぶ。 診察上の内科病変、整形外科的病変を答えることができる。
7		診察法５	接骨院で使用する一般的な物理療法器機の扱い方を学ぶ。 一般的な物理療法器機の禁忌症や注意事項を答えることができる。
8		診察法６	一般的なビジネスマナーを学ぶ。 服装と身だしなみのマナー、お辞儀、 会話、言葉遣いのマナーや笑顔とあいさつを行うことができる。
9		診察法７	医療人としてのマナーを学ぶ。 医療人としての心構え、職場のマナー、患者対応の注意事項を答えることができる。
10		外部臨床実習ガイダンス	外部臨床実習の意義、目的、評価方法を学ぶ。 外部臨床実習の到達目標を説明できる。
11		ロールプレイング1	症例記録を作成する際の注意事項を学ぶ。 ロールプレイングから症例記録を作成することができる。
12		ロールプレイング2	症例レポートを作成する際の注意事項を学ぶ。 症例記録から症例レポートを作成することができる。
13		ロールプレイング3	一般的な整骨院業務を学ぶ。 挨拶・事前準備（ベッドメイク,掃除など）・事後片付け（掃除、翌施術日の準備など）・介助法（寝かせ方,座らせ方,起こし方,立たせ方など）を実施することができる。
14		振り返り１	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 医療従事者としての自覚や感想、反省を述べることができる。
15		振り返り２	外部臨床実習から学んだことをまとめる。 症例レポートの発表を行うことができる。

16		検査法１	上肢の検査法を実施することができる。
17		検査法２	上肢・下肢の検査法を実施することができる。
18		検査法３	下肢の検査法を実施することができる。
19		ROM検査法	上肢・体幹のROMが計測できるようになる。
20		ROM検査法	下肢のROMが計測できるようになる。
21		ＭＭＴ１	ＭＭＴについて理解することができる。
22		ＭＭＴ２	ＭＭＴについて理解することができる。
23		ＭＭＴ３	ＭＭＴについて理解することができる。

科目名【英】	柔道整復応用講座１ Course of Judo Therapy Advanced 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	月曜日	時　限	6

担当教員	角田　晃啓	実務者経験	2009年より大学勤務 運動学を含む各種講義に従事 2015年より病院兼務 病院にて理学療法を実施

学習内容	人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。 特に重力の影響を受けた状態での運動について学習する。
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靭帯、筋について説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。運動学との関連を復習する。
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	期末試験１００％

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		運動学１	運動学の目的・運動の表し方・身体運動と力学 ヒトの運動を構成する原理、法則、概念について理解し、それを説明できる。
2		運動学２	運動器・神経の構造と機能 運動器・神経の構造ならびに機能について理解し、各関節での実際を想起できる。
3		運動学３	運動感覚・反射と随意運動 感覚の種類と反射、随意運動について理解し、それを説明できる。
4		運動学４	四肢と体幹の運動１【上肢帯・肩関節】 上肢帯・肩関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
5		運動学５	四肢と体幹の運動２【肘関節・前腕】 肘関節の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
6		運動学６	四肢と体幹の運動３【手関節・手】 手関節・手の構造・機能について理解し、上肢運動における役割を説明できる。
7		運動学７	四肢と体幹の運動４【股関節】 股関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
8		運動学８	四肢と体幹の運動５【膝関節】 膝関節の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
9		運動学９	四肢と体幹の運動６【足関節・足部】 足関節・足部の構造・機能について理解し、下肢運動における役割を説明できる。
10		運動学１０	四肢と体幹の運動７【体幹・脊柱・顔面・頭部１】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。
11		運動学１１	四肢と体幹の運動８【体幹・脊柱・顔面・頭部２】 体幹・脊柱・顔面・頭部の構造・機能について理解し、その役割を説明できる。
12		運動学１２	姿勢 基本的な立位姿勢について理解し、ヒトの姿勢の観察を通じてこれを想起できる。
13		運動学１３	歩行 歩行についての基本的な事項を理解し、ヒトの歩行の観察を通じてこれを想起できる。
14		運動学１４	運動発達 運動発達について理解し、これを想起できる。
15		運動学１５	運動学習 運動学習の方法・過程について理解し、これを想起できる。

科目名【英】	柔道整復応用講座４ Course of Judo Therapy Adovanced 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	土曜日	時　限	5

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	骨・関節・筋・靭帯・脊髄・神経の解剖・生理を理解した上で脊柱・骨盤・四肢（運動器）の外傷・障害、先天異常、腫瘍、変性疾患、骨系統疾患の診断法・治療法・後遺症を学ぶ。
到達目標	整形外科学を通して、人体の解剖生理を理解し運動器全体の検査法、治療法、後遺症を熟知し、柔道整復学による治療が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「整形外科学」（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		運動器の基礎知識①	骨　関節　の基礎知識　の　理解　と　習得
2		整形外科診察法①	姿勢　四肢・体幹　上下肢長　の診方　計測法の　理解　と　習得
3		整形外科検査法①	画像検査　骨密度検査　の　原理　と　診方　の　理解　と　習得
4		整形外科的治療法①	保存療法　の　意味　と　意義　と　方法　の　理解　と　習得
5		骨・関節損傷総論①	骨折　の　定義・分類・症状・診断・治癒・治療　の　理解　と　習得
6		骨・関節損傷総論③	骨折　の　合併症　関節損傷　の　理解　と　習得
7		感染性疾患①	感染の基礎　急性化膿性骨髄炎　慢性骨髄炎　の　理解　と　習得
8		骨および軟部腫瘍①	悪性骨腫瘍の　基礎　診断　治療法の　理解　と　習得
9		骨および軟部腫瘍③	悪性・良性軟部腫瘍の　基礎　診断　治療法の　理解　と　習得
10		関節リウマチ	関節リウマチの　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
11		その他の骨関節疾患	血友病性関節症・離断性骨軟骨炎・関節遊離体の症状　病態　治療の　理解　と　習得
12		骨粗鬆症①	骨粗鬆症の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
13		先天性の骨・軟骨疾患①	遺伝形式基礎　と　先天性骨系統疾患の総論　についての　理解　と　習得
14		先天性の骨・軟骨疾患③	大理石病・マルファン症候群・多発性神経線維腫症・くる病・巨人症の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
15		骨端症②	テストの解説及び　セーバー病・キーンベック病・ケーラー病の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得

科目名【英】	柔道整復応用講座５ Couse of Judo Therapy Advanced 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	6

担当教員	西浦　弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教8年間

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する
到達目標	国家試験の正答率６０％を目指す

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	病理学概論　改定版3版（医歯薬出版）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備　考	授業中静粛にする

成績評価	試験１００％

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		I. 病理概論・病因・国家試験問題解説・II. 先天異常⇔後天性疾患	授業内容（病理解剖と通常・特殊・免疫染色）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
2		III. 循環障害-2	授業内容（血液やリンパ循環の阻害が原因の虚血・血栓・浮腫）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
3		IV. 細胞障害-2	授業内容（細胞の退行性病変・萎縮・変性・壊死が原因の炎症系と免疫系への影響）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
4		V. 増殖と修復-2	授業内容（組織の回復機構と回復しない増幅性と特殊性炎症）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
5		VI. 炎症－2	授業内容（炎症関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
6		VI. 炎症－4	授業内容（炎症細胞の修復の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
7		VII. 免疫－2	授業内容（免疫関連の責任細胞の機能）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
8		VII. 免疫－4	授業内容（免疫細胞の炎症の場における働き）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
9		VIII. 腫瘍-2	授業内容（良性腫瘍と悪性腫瘍の差）について説明ができる。この範囲の過去の国家試験問題を配布し、自力で正解を導く訓練をする。
10		I. 病因,II. 先天異常⇔後天性疾患-4	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。
11		VI. 炎症-6	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。
12		VII. 免疫-6	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。
13		VIII. 腫瘍-4	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。
14		総まとめ-2	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。
15		総まとめ-4、試験	国家対策試験問題を理解させ、自力で正解を導く、生徒全員が過去国家試験の正答率６０％を確認する。

科目名【英】	生理学３ Physiology 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	後期	曜　日	火曜日	時　限	5

担当教員	田中　淳	実務者経験	2008～2015年は新潟経営大学、2016～2018年は環太平洋大学、2019年から現在までは大阪国際大学で、スポーツ生理学やトレーニング科学に関する講義および実技を担当

学習内容	成長期および高齢期における身体や運動能力の変化について、生理学的な特徴を理解し、運動能力の発達や障害予防につなげるための方法について学修する。また競技者におけるトレーニングによる生理学的な適応を理解し、運動能力向上のための方法について学修する。
到達目標	小児期から青年期の発育発達特性およびトレーニングによる変化を理解し説明することができる。 高齢者における身体の生理学的特徴や変化、運動による障害予防を理解し説明することができる。 競技者における身体の生理学的特徴を理解し説明することができる。

準備学習 時間外学習	準備学習として、教科書の該当するページを読み、内容を確認しておくこと。 時間外学習としては、授業で実施した内容を復習し、理解を深めておくこと。
使用教材	教科書「生理学改訂第4版」（南江堂）および「競技者の外傷予防」（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備　考	授業計画については、授業の進行等により変更する場合がある。

成績評価	期末試験60%、毎時の小テスト（レポート）20%、受講態度20%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		運動生理学の概要（１）	運動と呼吸・循環 呼吸・循環器系の運動による応答やトレーニングによる適応について説明できる
2		運動生理学の概要（２）	運動とホルモン ホルモンの運動による応答や骨格筋、骨の成長への影響について説明できる
3		運動生理学の概要（３）	競技者の運動生理学的特徴① 競技者の有酸素性作業能力について説明できる
4		運動生理学の概要（４）	競技者の運動生理学的特徴② 競技特性と間欠的作業能力について説明できる
5		運動生理学の概要（５）	競技者の運動生理学的特徴③ 競技者の形態および身体組成について説明できる
6		発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化（１）	成長に伴うからだや運動能力の発達① 小児期から青年期の発育曲線および発育の特徴について説明できる
7		発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化（２）	成長に伴うからだや運動能力の発達② 発育期の運動不足・オーバートレーニング、運動の発達と習熟について説明できる
8		発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化（３）	競技者の生理学的特徴・変化① トレーニングによる筋・心肺機能の適応変化について説明できる
9		発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化（４）	競技者の生理学的特徴・変化② トレーニングによる神経機構の変化について説明できる
10		発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化（５）	競技者の生理学的特徴・変化③ トレーニングによる姿勢調整能力の変化について説明できる
11		高齢者の生理学的特徴・変化（１）	細胞・組織の加齢現象、高齢者の生理的特徴①（加齢による臓器機能の変化） 細胞、生体膜、細胞内小器官、体内水分量の加齢変化および加齢による臓器機能の変化について説明できる
12		高齢者の生理学的特徴・変化（２）	高齢者の生理的特徴②（高齢者に多い疾患・障害） フレイルや認知症、骨粗鬆症など高齢者に多い疾患や障害について説明できる
13		高齢者の生理学的特徴・変化（３）	運動と加齢① 歩行機能、平衡機能および反応時間の加齢変化について説明することができる
14		高齢者の生理学的特徴・変化（４）	運動と加齢② 加齢に伴う各種運動能力（筋力、パワー、持久力、柔軟性など）の低下とその予防について説明することができる
15		まとめ	全講義のまとめと期末試験のフィードバック 運動生理学の概要および発育発達や加齢における生理学的特徴と変化の理解を深める

科目名【英】	解剖生理学2 Anatomy and Physiology(Anatomical			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	２学年	学　期	後期	曜　日	土曜日	時　限	7

担当教員	池　宏海	実務者経験	平成2年から20年まで大学解剖学講座で教育に従事。平成20年から令和1年専門学校で講義を行う（現在に至る）。

学習内容	講義形式で人体の構造と機能について学ぶ
到達目標	系統別に体の構造を理解した上で、人体で起こる様々な現象を理解する。

準備学習 時間外学習	解剖学の教本でマスターしたことを過去の国家試験問題を解き、理解度を確認する。
使用教材	医歯薬出版　解剖学　生理学
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験のみで評価

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		脈管系	総論〔体循環と肺循環　血管の形態・構造〕、心臓〔位置・構造　弁・心膜・興奮伝導系　心臓の脈管と神経　心膜〕を理解する。
2		脈管系	肺循環、体循環（動脈系）を理解する。
3		脈管系	体循環（静脈系）、胎児循環を理解する。
4		脈管系	リンパ系を理解する。
5		内臓系	消化器〔口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸〕を理解する。
6		内臓系	消化器〔肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜〕を理解する。
7		内臓系	呼吸器〔外鼻・鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支・肺・胸膜・縦隔〕を理解する。
8		内臓系	泌尿器〔腎臓・尿管・膀胱・尿道〕を理解する。
9		内臓系	生殖器〔生殖器の働き・男性生殖器(精巣・精巣上体・精管・付属生殖器・陰茎・陰嚢)〕を理解する。
10		内臓系	生殖器〔女性生殖器（卵巣・卵管・子宮・膣・外陰部・会陰・卵巣と子宮の周期的変化・胎盤〕を理解する。
11		感覚器系	外皮（皮膚　筋・腱・関節の感覚神経）を理解する。
12		感覚器系	①視覚器〔眼球、眼球付属器（眼瞼・涙器・眼筋）〕を理解する。
13		感覚器系	②聴覚器・④平衡覚器〔外耳　中耳(鼓膜・鼓室・耳管)　内耳（蝸牛・前庭・半規管・平衡覚器と聴覚器および各中枢〕を理解する、
14		感覚器系	⑤味覚器〔舌・味覚神経〕、⑥嗅覚器〔嗅上皮・嗅球・嗅覚中枢〕を理解する。
15		体表解剖	体表を区分し、体表から骨・筋・血管・神経など読み取れるようにする。

科目名【英】	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	後期	曜　日	月曜日	時　限	5

担当教員	山本　貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。

学習内容	リハビリテーション医学の基礎的な内容を理解する。生活機能を評価し、改善するための着眼を養う。
到達目標	リハビリテーションの理念を理解し説明することが出来る。医学的リハビリテーションにおける多職種協働によるアプローチを実践するための,専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備　考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト１００％

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		リハビリテーションの概念・歴史	リハビリテーションの概念・歴史 リハビリテーションの理念を説明することができるようになる
2		障害の捉え方・ICIDH	国際障害分類 ICIDHでの障害分類を説明できる。簡単な障害をICIDHの障害構造に分類できるようになる
3		障害と生活機能ICF	国際生活機能分類 ICFに基づく生活機能の説明ができる。背景因子への介入方法について説明できるようになる
4		リハビリテーションでの多職種連携	リハビリテーションに関わる職種・多職種連携 リハビリテーションに関わる職種を説明することができるようになる
5		評価学１	リハビリテーションにおける評価 リハビリテーションで用いる評価法を理解できるようになる
6		障害学と治療学１	関節機能障害とその治療 可動域制限の原因の鑑別診断とその治療手技について理解できるようになる
7		障害学と治療学２	筋力低下・神経障害とその治療 筋力・神経機能の評価から治療までの過程を理解できるようになる
8		障害学と治療学３	各種治療技術の紹介（身体作業療法・精神科作業療法） 作業療法について説明できるようになる
9		障害学と治療学４	各種治療技術の紹介（言語障害・高次脳機能障害ととその治療） 言語障害、高次脳機能障害について理解し説明できるようになる
10		高齢者１	廃用症候群 廃用症候群の各症候を理解し、その対処法を説明できるようになる
11		高齢者２	医療制度・介護保険制度 高齢者に関連する社会制度で実践されるリハビリテーションについて理解できるようになる
12		脳血管障害１	脳血管障害 脳血管障害の急性期のリハビリテーションを理解できるようになる
13		脳血管障害２	脳血管障害 脳血管障害の回復期・維持期のリハビリテーションを理解できるようになる
14		パーキンソン病	パーキンソン病・神経疾患 パーキンソン病等のリハビリテーションについて理解できるようになる
15		試験解説・まとめ	前期試験を解説 前期で学習した範囲が説明できるようになる

科目名【英】	一般臨床医学 General Remarks of Clinical Medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	後期	曜　日	木曜日	時　限	7

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人　淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定　手術助手　手術後のリハビリテーション担当　1993年9月～2013年4月

学習内容	内科的疾患について学ぶ
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。
使用教材	教科書「一般臨床医学」
留意点 備　考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。

成績評価	最終日に行う試験による評価を１００％とする。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		医療面接 視診	医療面接、方法と意義、社会歴、主訴について理解、説明できるようになる 体格・体形　身体所見の取り方について理解、説明できるようになる
2		視診	精神状態、意識状態について理解、説明できるようになる 異常運動　不随意運動、麻痺について理解、説明できるようになる
3		視診	片麻痺歩行～随意性歩行について理解、説明できるようになる 皮膚の色調の異常について理解、説明できるようになる
4		視診	顔面の異常運動について理解、説明できるようになる 頚部の異常所見について理解、説明できるようになる
5		視診 打診	手の変形、足の変形について理解、説明できるようになる 打診音の種類について理解、説明できるようになる
6		聴診	肺の聴診、心臓の聴診、腹部の聴診について理解、説明できるようになる
7		触診 生命徴候	腹部の異常について理解、説明できるようになる 体温、血圧について理解、説明できるようになる
8		感覚検査 反射検査	表在感覚、深部感覚、複合感覚の検査について理解、説明できるようになる 反射の異常について理解、説明できるようになる
9		国家試験出題疾患解説	内分泌疾患、腎・尿路系疾患、神経疾患、リウマチ・膠原病、アレルギー疾患について理解、説明できるようになる
10			

科目名	外科学概論 Introduction of Surgery			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	後期	曜　日	土曜日	時　限	5

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	医療の基本を学ぶ。まず、外科学総論として外傷学や手術の基本を学ぶ。外科学各論として、各臓器の外科疾患における病態と治療法について学ぶ。
到達目標	医学における生理学と解剖学に基づいた外科臨床の考え方を身につける。さらに、基礎的な医療用語を筆記にて説明できるようにする。

準備学習 時間外学習	臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「外科学概論」（南江堂）
留意点 備　考	

成績評価	期末試験で100%評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		損傷	創と傷について説明できる。バイタルサインが列挙できる。
2		熱傷・感染症	熱傷深度について説明できる。破傷風など外科感染症を説明できる。
3		腫瘍	良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。ボールマン分類を図示できる。
4		ショック・輸液	ショックの定義を説明できる。酸塩基平衡を表示できる。
5		消毒滅菌・手術	消毒液と滅菌法を説明できる。手術法を列挙できる。
6		麻酔・免疫・出血	局所麻酔について説明できる。内外出血の原因疾患を列挙できる。
7		心肺蘇生	救急医療のABCとAEDを説明できる。
8		総論総まとめ	中間テストを行ない、理解していない項目を学習する。
9		脳神経外科疾患	頭部外傷の病型分類を表示できる。頭蓋内出血の各疾患を説明できる。
10		甲状腺頚部胸壁呼吸器疾患	甲状腺機能亢進症について説明できる。肺がん、肋骨骨折を説明できる。
11		心臓脈管疾患	虚血性心疾患を説明できる。末梢の動脈静脈疾患を説明できる。
12		乳腺疾患・腹部外科疾患	乳がんについて説明できる。腹部外科総論を説明できる。
13		腹部外科疾患	腹部外科各論を説明できる。急性腹症を表示できる。
14		確認テスト	個別医療関連単語について、知識を検証し確認する。
15		各論総まとめ	理解していない項目を学習する。各論のうち特に外傷外科について説明できるようになる。

科目名【英】	衛生学・公衆衛生学 Hygiene and Public Health			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	後期	曜　日	金曜日	時　限	5

担当教員	西浦　弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教8年間

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する。
到達目標	国家試験の正答率６０%を採ることができるようになる。

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	衛生学・公衆衛生学　改定版６版（南江堂）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備　考	授業中静粛にする

成績評価	筆記試験１００%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		1.衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	心身の健康の保全を研究する学問と理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率６０%を採ることができるようになる。
2		2.健康の概念	WHOにおける健康を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率６０%を採ることができるようになる。
3		3.疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率６０%を採ることができるようになる。
4		4.感染症の予防	感染と発病を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率６０%を採ることができるようになる。
5		5.消毒	消毒の意義を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率６０%を採ることができるようになる。
6		6.環境衛生	環境問題を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率６０%を採ることができるようになる。
7		7.生活環境・食品衛生活動	水の衛生と水質汚濁を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率６０%を採ることができるようになる。
8		8.母子保健	ライフサイクルと母子保健を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率６０%を採ることができるようになる。
9		9.学校保健	健康生活能力の発達を図るために学校で行われる諸活動を学校保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０%を採ることができるようになる。
10		10.産業保健	働く人の病気を予防し、健康を保持増進するための学問と活動が産業保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０%を採ることができるようになる。
11		11.成人・高齢者保健	老年人口の増加と生活習慣予防対策を理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０%を採ることができるようになる。
12		12.精神保健、13.地域保険と国際保健	精神障害の予防が精神保健と理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。地域および国際を対象としたものが地域保険および国際保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０%を採ることができるようになる。
13		14.衛生行政と保健医療の制度、15.医療の倫理と安全の確保	公衆衛生の定義の中でコミュニテ―の組織学的な努力を通じての部分を具体化したものと理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。道徳的規範を特定の医療集団に適応させたものが倫理と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０%を採ることができるようになる。
14		16.疫学	人間集団における疾病の分布とその発生原因を研究する科学を疫学と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率６０%を採ることができるようになる。
15		試験対策	試験対策問題の解答と解説。正答率６０%を採ることができるようになる。

科目名【英】	基礎鑑別学 Difference Diagnosis Basic			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	後期	曜　日	火曜日	時　限	7

担当教員	高橋秀郎	実務者経験	医療法人　淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定　手術助手　手術後のリハビリテーション担当　1993年9月～2013年4月

学習内容	柔道整復師がチーム医療の一員として活躍するために必要な事は、他の職種とスムーズな患者情報の共有と柔道整復師の対応できる疾患の速やかな病態把握である。基礎鑑別学ではこれらの課題を遂行するための基礎知識を学ぶ。特に重篤な後遺症をを招くような注意すべき疾患の兆候にに重点を置いて解説する
到達目標	患者の兆候から今後起こりえる病態を考察できるようになる 医療機関との連携が必要であると判断した際に、スムーズな患者情報の提供ができるようになる

準備学習 時間外学習	人体の構造である解剖学　柔道整復術のと関連の深い整形外科学の知識を整理しておくこと
使用教材	全国柔道整復学校協会監修　「医療の中の柔道整復」　有沢　修　著
留意点 備　考	教科書を熟読すること。 板書の書き写しは強制しない。書き写しに気を取られ解説の理解が疎かにならないようにする事

成績評価	定期試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		鑑別学1	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
2		鑑別学2	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
3		鑑別学3	損傷に類似した症状を示す疾患 身体各部の兆候から今後の症状の推移を判断することが出来る
4		鑑別学4	血流障害を伴う損傷 血流障害の兆候を理解し、緊急時の対応が出来るようになる
5		鑑別学5	末梢神経障害を伴う損傷 神経障害の発生機序を理解し、神経障害特有の病態から損傷されている神経の判断が出来る
6		鑑別学6	脱臼骨折 脱臼骨折の状態とその予後について理解する。後遺症の残らない対応の判断が出来る
7		鑑別学7	外出血を伴う損傷 柔道整復術の禁忌症の可能性を念頭に置いた対応が出来るようになる
8		鑑別学8	病的骨折及び脱臼 骨折、脱臼の対応とともに契機となる先行病変について理解し説明できるようになる
9		鑑別学9	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
10		鑑別学10	意識障害を伴う損傷 意識障害を呈する患者の対応と意識障害を引き起こす病態について説明できるようになる
11		鑑別学11	脊髄症状のある損傷 脊髄損傷の症状を重篤化しない対応方法と脊髄損傷を引き起こす外傷について説明できる
12		鑑別学12	呼吸運動障害を伴う損傷 呼吸運動障害を呈する患者の対応と医療機関との連携をスムーズに行うことが出来る
13		鑑別学13	内蔵損傷の合併が疑われる損傷 内蔵損傷の兆候と対応方法を理解しその概要を説明できるようになる
14		鑑別学14	高エネルギー外傷 身体に高エネルギーの外力が加わった際の反応と組織損傷について説明できるようになる
15		鑑別学15	全体のまとめと総復習

科目名【英】	柔道３ Judo 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	木曜日	時　限	5

担当教員	中村　義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、形（手技・腰技）や礼法を習得する。
到達目標	形や礼法を習得し、行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	1年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備　考	準備運動としてストレッチや受身をとり外傷を予防する。

成績評価	15回目後に進級実技試験を実施し、柔道実技試験にて評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		受身	横・前回り受身を行うことができる。
2		約束乱取１	大外刈や体落の技の基本を学び行うことができる。
3		約束乱取２	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
4		約束乱取３	打込、投込の説明を行う。 背負投、大外刈、体落の打込や投込を行うことができる。
5		形（手技）１	講道館の形について学ぶ 浮落の形（右投）を学び行うことができる。
6		形（手技）２	講道館の形について学ぶ 浮落の形（左投）を学び行うことができる。
7		形（手技）３	浮落の形を左投、右投を行うことができる。
8		形（手技）４	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
9		形（手技）５	講道館の形について学ぶ 右背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
10		形（手技）６	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
11		形（手技）７	講道館の形について学ぶ 左背負投の注意点を学び、指示通りに行っているかお互いで確認しあう。
12		形（手技）８	講道館の形について学ぶ 肩車の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
13		形（腰技）	講道館の形について学ぶ 浮腰の注意点を学び、指示通りに行うことができる。
14		復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。
15		復習	礼法、形、約束乱取の練習 進級実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。

科目名【英】	外傷予防理論実習１ Injury Prevention Conditioning Practices 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	後期	曜　日	月曜日	時　限	7

担当教員	田中　精一	実務者経験	2013年3月より通所介護施設開設。高齢者の転倒による外傷予防を含めた日常生活機能の維持・向上への機能訓練指導を行う。

学習内容	高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に転倒を含めた外傷の予防、日常生活能力の維持・向上にむけた介護予防等は機能訓練指導員の大きな責務です。柔道整復師はその一員として位置づけられています。今後益々その担い手として介護分野への参画が期待されています。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事。また、医療分野への就職あるいは独自での開業だけに留まらず、介護分野への参入で将来の生計の幅の広がりを感じていただく事を目的とします。
到達目標	機能訓練指導員として介護保険制度の知識と技術を習得。

準備学習 時間外学習	授業計画を確認し、配布資料・講義内容をもとに予習・復習を行ってください。聞き逃しや疑問点がありましたら質問に来てください。
使用教材	教科書『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	配布したプリントは整理し、授業の度に持参して受講するのが望ましい。

成績評価	期末筆記試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		柔整師と介護保険	介護保険サービスにおける柔整師の必要性の理解。
2		柔整師と介護保険	介護保険サービスにおける柔整師の職務の理解。
3		発達と老化の理解Ⅰ	サルコペニアとフレイルの違い。
4		介護保険制度 認定調査	介護保険制度の理解 認定調査内容の理解
5		介護保険制度 二人組　認定調査	介護保険制度の理解 認定調査内容の理解と調査体験。
6		介護区分とサービス	各種介護サービスの理解
7		介護の過程Ⅰ 情報分析	介護支援のための情報分析（基本情報、アセスメント、課題の抽出）
8		介護の過程Ⅱ 居宅介護計画(原案)作成	介護支援のための居宅介護計画の作成能力習得。
9		ADLの評価法FIM　高齢者の身体機能	ADLの評価（ランクによる支援の考え方） 歩行とスクワット動作等の確認と指導ポイント
10		機能訓練指導 機能訓練計画作成	機能訓練指導方法の理解。 個別機能訓練計画作成力
11		認知症の理解	認知症患者の理解
12		高齢者介護とＩＣＦ	国際障害分類と国際生活機能分類（世界共通の分類）の理解
13		ロコモティブシンドローム	ロコモテスト方法と評価方法の習得
14		高齢者救急・高齢者疾患	介護施設における救急と高齢者疾患の理解・我が国と欧米の死生観の違い
15		試験解答と解説 柔整師と機能訓練指導員 まとめ	筆記試験解答と解説 柔道整復師としての職業選択の幅

科目名【英】	柔道整復実技３ Judo Therapy Practical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	水曜日	時　限	5

担当教員	金釘直幸	実務者経験	１９９７年９月整骨院を開業し現在に至る。同整骨院にて柔道整復施術を行う。

学習内容	肩鎖関節部の固定法及び代表的な骨折の整復法を学ぶ。 骨折を整復する前後の診察法を学ぶ。
到達目標	鎖骨骨折、上腕骨外科頚外転型骨折、上腕骨顆上伸展型骨折、コーレス骨折、上腕骨顆上骨折の整復の操作を実施できる。肩鎖関節脱臼の固定ができる。 臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論を復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、配布プリント
留意点 備　考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	実技の期末試験100%

授業計画 【テーマ・内容･目標】			
1		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼におけるテーピング固定ができる 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
2		鎖骨骨折　整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や固定法を行うことができる。
3		上腕骨外科頚外転型骨折　整復法	上腕骨外科頚外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
4		上腕骨外科頚外転型骨折　整復法	上腕骨外科頚外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
5		コーレス骨折　牽引直圧法　整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
6		コーレス骨折　屈曲　整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
7		上腕骨顆上伸展型骨折　整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
8		上腕骨顆上伸展型骨折　整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
9		肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼のテーピングによる固定法を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や固定法を行うことができる。
10		鎖骨骨折　整復法	鎖骨骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
11		上腕骨外科頚外転型骨折　整復法	上腕骨外科頚外転型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
12		コーレス骨折　牽引直圧法/屈曲整復法	コーレス骨折牽引直圧法の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
13		上腕骨顆上伸展型骨折　整復法	上腕骨顆上伸展型骨折の整復操作手順を理解し整復を行うことができる。 患者を意識して愛護的で適切な診察や整復法を行うことができる。
14		総復習1	後期の授業で学んだ全て整復法を左右のどちらとも患肢として制限時間を設け時間内に実施できる。
15		総復習2	要点の整理。説明しながら整復法ができるようになる。

科目名【英】	柔道整復実技４ Judo Therapy Practical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	水曜日	時　限	7

担当教員	正木　大吾	実務者経験	平成6年から鍼灸整骨院開業し約1,000症例の骨折、脱臼の施術を行いながら平成13年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。

学習内容	前腕骨遠位端部、手根骨、中手骨、指骨折と手根骨、手指の脱臼の各論を学ぶ。また顎、肩、肘、肩鎖関節脱臼の整復実技、functional braceによる上腕骨骨幹部骨折の応用固定法を学びます。
到達目標	２年生の進級実技試験に合格し各骨折、脱臼の国家試験問題が解けるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）参照
使用教材	柔道整復理論　改訂第7版
留意点 備　考	

成績評価	100%　定期試験評価

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		前腕骨遠位端部骨折	橈骨遠位端部骨折の分類、コーレス骨折の発生機序、骨折線、骨片転位説明できる。
2		前腕骨遠位端部骨折	コーレス骨折の症状、変形、定型的転位、合併症などが説明できる。
3		前腕骨遠位端部骨折	コーレス固定法、続発症、後遺症などが説明できる。
4		前腕骨遠位端部骨折	スミス骨折の発生機序、骨片転位、症状、固定法、後療法の説明ができる。
5		前腕骨遠位端部骨折	バートン骨折、ショーファー骨折、橈骨遠位端骨端線離開の発生機序、骨片転位、症状、合併症の説明ができる。
6		手・指部の損傷	舟状骨骨折の特徴、発生機序、分類、症状、合併症、整復固定法、難治の理由、予後を理解する。
7		手・指部の損傷	三角骨、有鉤骨、豆状骨、月状骨、有頭骨、大菱形骨骨折、手関節の脱臼、遠位橈尺関節脱臼を理解できる。
8		手・指部の損傷	月状骨骨折、月状骨周囲脱臼、ＣＭ関節、母指ＭＰ関節脱臼、母指以外のＭＰ関節脱臼
9		手・指部の損傷	母指以外のＭＰ関節脱臼、中手骨骨折、ボクサー骨折の骨片転位、整復法、固定法を理解できる。
10		手・指部の損傷	中手骨骨幹部骨折(横骨折、斜骨折、螺旋状骨折）ベネット骨折の発生機序、症状、注意事項を理解する。ローランド骨折を理解できる。
11		手・指部の損傷	ＣＭ関節の脱臼骨折、指骨骨折の分類、基節骨骨折の骨片転位、整復固定法が理解できる。
12		手・指部の損傷	中節骨骨折（顆部、骨幹部、掌側板付着部裂離骨折）の骨片転位、整復固定法が理解できる。末節骨骨折の分類、骨片転位、整復固定法が理解できる。
13		上腕骨骨幹部骨折の応用固定法	キャスト材を用いたサルミエントの機能的装具固定が出来る。
14		上腕骨骨幹部骨折の応用固定法	キャスト材を用いたサルミエントの機能的装具固定が出来る。
15		後期試験解答	後期試験問題の解答と解説と２年生進級実技試験の脱臼整復法の復習

科目名【英】	柔道整復実技５ Judo Therapy Practical Training 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	水曜日	時　限	6

担当教員	岩本　暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月　接骨院に所属し施術をおこなう。

学習内容	下肢および頭部顔面の損傷を学ぶ。
到達目標	発生機序や症状を理解し、鑑別することができる。国家試験に対応できるレベルに到達できる。

準備学習 時間外学習	解剖学（骨・筋）を復習する
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	50分授業

成績評価	定期試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		股関節の 軟部組織損傷１	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群、股関節外転位拘縮、 内転位拘縮、屈曲位拘縮を理解する
2		股関節の 軟部組織損傷２	発育性股関節不全、ペルテス病、大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死症、 変形性股関節症について理解する
3		股関節の 軟部組織損傷３	ヒップテスト、トーマステストの実施、国試過去問で振り返り、問題解説を行う
4		大腿部の 軟部組織損傷１	筋損傷の総論を振り返り、大腿部打撲、大腿四頭筋の肉ばなれについて理解する
5		大腿部の 軟部組織損傷２	ハムストリングの肉ばなれについて理解し、SLRを実施する
6		大腿部の 軟部組織損傷３	大腿部損傷の検査法陽性メカニズムについて理解し、 国試過去問で振り返り、問題解説を行う
7		肩関節・上腕二頭 筋の検査法	腱板断裂および上腕二頭筋長頭腱炎の検査法陽性メカニズムについて理解する
8		膝関節の 軟部組織損傷１	側副靱帯損傷の検査法陽性メカニズムについて理解する
9		膝関節の 軟部組織損傷２	十字靭帯損傷の検査法陽性メカニズムについて理解する
10		膝関節の 軟部組織損傷３	半月板損傷の検査法陽性メカニズムについて理解する
11		下腿部の 軟部組織損傷	下腿三頭筋損傷、アキレス腱損傷の検査法陽性メカニズムについて理解する
12		足関節部の 軟部組織損傷	前方引出し検査、内反ストレステストの検査法陽性メカニズムについて理解する
13		脊柱部の 軟部組織損傷１	脊柱部の検査法陽性メカニズムについて理解する
14		脊柱部の 軟部組織損傷２	脊柱部の検査法陽性メカニズムについて理解する
15		試験解説	試験の振り返り・復習

科目名【英】	柔道整復実技６ Judo Therapy Practical Training			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	金曜日	時　限	7

担当教員	姫　将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012－2014接骨院勤務 2014－東洋医療専門学校専科教員　現在に至る

学習内容	下肢の損傷を学び、柔道整復師の役割について考える。
到達目標	１．疾患概念を説明できる。 ２．各損傷におけるポイントを説明できる。 ３．膝関節部、足関節部、足部の解剖と機能について説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖に対して不安であれば予習をしておくこと。
使用教材	柔道整復学・理論編 改定第7版（南江堂）/　PC　/　配布資料
留意点 備　考	パワーポイントを使用するため色覚異常など配慮が必要であれば申し出ること。

成績評価	定期試験（前期・筆記）にて100%評価とする。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		足・足趾骨折	足根骨骨折　距骨骨折、踵骨骨折 足根骨骨折の発生機序、症状を説明できる
2		足・足趾骨折	足根骨骨折　舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折 足根骨骨折の発生機序、症状を説明できる
3		足・足趾骨折	中足骨骨折、趾骨骨折 中足骨骨折と趾骨骨折の分類、症状を説明できる
4		膝関節部軟部組織損傷	半月板損傷、側副靭帯損傷 症状と検査法を説明できる
5		膝関節部軟部組織損傷	ACL損傷、PCL損傷 症状と検査法を説明できる
6		膝関節部軟部組織損傷	発育期の膝関節障害 各障害の概念を説明できる
7		膝関節部軟部組織損傷	膝蓋大腿関節障害 各障害の概念を説明できる
8		下腿部軟部組織損傷	アキレス腱断裂、アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎 アキレス腱断裂の症状、検査法、治療法を説明できる
9		下腿部軟部組織損傷	下腿三頭筋肉離れ、下腿部スポーツ障害 症状、検査法を説明できる
10		足関節部軟部組織損傷	足関節捻挫（類症鑑別を含む） 各損傷の症状を説明し、類症鑑別を挙げることができる
11		足関節部軟部組織損傷	足関節捻挫（類症鑑別を含む） 各損傷の症状を説明し、類症鑑別を挙げることができる
12		足、足趾部軟部組織損傷	足部有痛性疾患 各疾患を挙げて、概念を説明できる
13		足、足趾部軟部組織損傷	足部有痛性疾患 各疾患を挙げて、概念を説明できる
14		下肢軟部組織損傷の治療法	下肢軟部組織損傷の検査、固定法を学ぶ
15		後期まとめ	後期内容のまとめ、補填

科目名【英】	臨床実習３ Clinical Training 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単　位	1
学　年	2	学　期	夏季集中	曜　日	外部実習	時　限	

担当教員	岩本　暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月　接骨院に所属し施術をおこなう。

学習内容	臨床体験、臨床見学を通して、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を修得する
到達目標	1)　臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2)　実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3)　患者に対し、適切な態度で接する。

準備学習 時間外学習	1.施術所で患者に不快感を与えない身嗜みを整える。 2.施術者に相応しい挨拶（自己紹介）ができる。 3.施術所で患者に不快感を与えない態度、適切な言葉づかいができること。 4.医学的な清潔の意味が説明できること。 5.施術所の清潔保持の重要性について説明できること。 6.守秘義務を説明できること。
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	出席率　及び　臨床実習評価表にて評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】							
1		基礎実習	1)　柔道整復師として相応しい服装、身嗜み、態度を身に付ける 2)　医療面接の実施 3)　ROM、MMTなどを計測、評価の実施 4)　神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5)　治療器機の効果、禁忌の理解 6)　ベッドメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 1)　環境準備 2)　受付業務 3)　患者さんの誘導を実施				
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9		患者さんに対する対応	1)　患者に対して適切な対応ができる。 2)　患者の抱える問題点に共感できる。 3)　自己の問題点を抽出し、解決できる。				
10							
11							
12							
13		施術録作成・症例検討	1)　施術録の記載 2)　症例検討の実施				
14							
15							
16							
17		保険請求	1)　手続きの意義 2)　記載方法の実施				
18							
19							
20							
21		実習期間	時間数	回数	総時間	期間	
22			8時間(全日)	6回 (6回目は5時間)	45時間	8月中の1週間	
23							

科目名【英】	柔道整復応用講座２ Course of Judo Therapy Advanced 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	月曜日	時　限	6

担当教員	山本　貴啓	実務者経験	1999年理学療法士免許。総合病院、通所リハ、特養、訪問リハの実務経験。2006年介護支援専門員。PT養成校（専門学校・大学）教員。

学習内容	リハビリテーション医学の対象となる主要な疾患ごとのリハビリテーションの内容を理解する。 柔道整復師としてリハビリテーション専門職と関わるときの共通言語の理解に繋げる。
到達目標	主要な疾患でのリハビリテーションを理解し説明することが出来る。 専門用語を理解し説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	復習に重点を置き、講義内で示された専門用語を調べ、ノートにまとめる。
使用教材	教科書『リハビリテーション医学改訂第4版』（南江堂）配付資料
留意点 備　考	疾患別の講義については、一般臨床医学、病理学、運動学等の教科書持参を指示することがある。

成績評価	期末テスト１００％

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		運動器障害１	骨折・変形性関節症・骨粗鬆症 高齢者の骨折・骨粗鬆症について説明できるようになる
2		運動器障害２	上肢の運動器疾患 上肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
3		運動器障害３	下肢の運動器疾患 下肢の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
4		運動器障害４	体幹の運動器疾患 体幹の運動器疾患とそのリハビリテーションについて説明できるようになる
5		内部障害１	呼吸機能障害・ＣＯＰＤ・在宅酸素療法 呼吸機能障害を説明できるようになる
6		内部障害２	心疾患リハビリテーション・運動処方 心臓機能障害を説明できるようになる
7		スポーツ・障害者スポーツ	スポーツリハビリテーション・障害者スポーツ スポーツリハビリテーション・障害者スポーツについて概説できるようになる
8		試験解説・まとめ	後期試験解説 後期で学習した範囲が説明できるようになる
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

科目名【英】	柔道整復応用講座３ Course of Judo Therapy Advanced 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	木曜日	時　限	6

担当教員	高橋 秀郎	実務者経験	医療法人　淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定　手術助手　手術後のリハビリテーション担当　1993年9月～2013年4月

学習内容	内科的疾患について学ぶ
到達目標	臨床現場において注意を払わなければならない症状・所見について理解を深める。 また柔道整復師国家試験に対応できるだけの知識をつける。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学総論との関連を復習する。
使用教材	教科書「一般臨床医学」
留意点 備　考	副教材として解剖学・生理学の教科書は、持参の必要はないが、自宅にて復習に用いること。

成績評価	最終日に行う試験による評価を１００％とする。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		診察概論 診察の意義	診察の進め方　心構え　評価と記録について理解、説明できるようになる
2		視診	体位・姿勢、栄養状態、肥満とやせについて理解、説明できるようになる
3		視診	運動失調、異常歩行について理解、説明できるようになる
4		視診	皮膚の正常の異常について理解、説明できるようになる 頭部の形、大きさ、顔貌、顔色について理解、説明できるようになる
5		視診	脊柱の異常変化について理解、説明できるようになる 胸部、腹部の異常変化について理解、説明できるようになる
6		打診	胸部の打診、腹部の打診について理解、説明できるようになる
7		触診	皮膚、皮下の異常について理解、説明できるようになる
8		生命徴候	脈拍、呼吸の異常について理解、説明できるようになる
9		テスト解説	定期考査について疑義受付
10			
11			

科目名【英】	柔道整復応用講座６ Course of Judo Therapy Advanced 6			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	土曜日	時　限	6

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	外科学を学び柔道整復の臨床に応用できるように基礎知識を身につける。
到達目標	前期範囲を含めて自ら考えて説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	授業同様、自学習において自ら考える力を養うことを望む
使用教材	外科学概論　改訂第４版　南江堂
留意点 備　考	50分授業として実施する。

成績評価	期末試験で100%評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		外科学総論１	損傷と創傷 損傷の分類を説明できる
2		外科学総論２	熱傷、炎症、腫瘍 熱傷の分類を説明できる
3		外科学総論３	消毒、麻酔、手術 消毒薬と特徴について説明できる
4		外科学総論４	ショック、輸液、心肺蘇生 ショックの定義を説明できる
5		外科学総論５	移植、出血と止血 移植の用語を説明できる
6		外科学総論６	総論まとめ 総論の要点をまとめ、説明できる
7		外科学総論７	総論テスト（中間テスト） 中間試験で及第点がとれる
8		外科学各論１	脳神経外科疾患 主な脳神経疾患の種類を挙げることができる
9		外科学各論２	甲状腺、胸壁・呼吸器疾患 胸部損傷での注意点を説明することができる
10		外科学各論３	心臓・脈管疾患 ASO,TAOの相違点を説明できる
11		外科学各論４	乳腺疾患、腹部疾患 腹部疾患の症状を説明できる
12		外科学各論５	腹部疾患 腹部疾患における注意点を説明できる
13		外科学各論６	各論まとめ 各論の要点をまとめ、説明できる
14		外科学各論７	外科学まとめ、受験の心構え 医療者としての心構えを示すことができる
15		学年末まとめ	試験実習１ 模擬試験で及第点がとることができる

科目名【英】	柔道整復応用講座７ Course of Judo Therapy Advanced 7			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	金曜日	時　限	6

担当教員	西浦　弘志	実務者経験	平成8年～平成25年：熊本大学・大学院医学研究科・分子病理学講座；助教17年間、平成25年～平成26年：大阪歯科大学・薬理学講座；講師0.5年間、平成26年～現在に至る：兵庫医科大学・病理学講座・病理診断部門；助教8年間

学習内容	日本さらには世界の医療の現状を把握し、患者の各現状に合わせた医療計画を立案する能力を持つ柔道整復師になる基礎を学習する。
到達目標	国家試験の正答率６０％を採ることができるようになる。

準備学習 時間外学習	国家試験対策プリントの整理
使用教材	衛生学・公衆衛生学　改定版６版（南江堂）、国家試験対策プリントおよびノート
留意点 備　考	授業中静粛にする

成績評価	筆記試験１００％

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		1.衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	心身の健康の保全を研究する学問と理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
2		2.健康の概念	WHOにおける健康を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
3		3.疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
4		4.感染症の予防	感染と発病を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
5		5.消毒	消毒の意義を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
6		6.環境衛生	環境問題を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
7		7.生活環境・食品衛生活動	水の衛生と水質汚濁を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
8		8.母子保健	ライフサイクルと母子保健を理解する。国家試験対策問題を配布し、理解度をチェックする。正答率60%を採ることができるようになる。
9		9.学校保健	健康生活能力の発達を図るために学校で行われる諸活動を学校保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
10		10.産業保健	働く人の病気を予防し、健康を保持増進するための学問と活動が産業保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
11		11.成人・高齢者保健	老年人口の増加と生活習慣予防対策を理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
12		12.精神保健、13.地域保険と国際保健	精神障害の予防が精神保健と理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。地域および国際を対象としたものが地域保険および国際保健と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
13		14.衛生行政と保健医療の制度、15.医療の倫理と安全の確保	公衆衛生の定義の中でコミュニテ―の組織学的な努力を通じての部分を具体化したものと理解する。国家試験対策問題にて理解度をチェックする。道徳的規範を特定の医療集団に適応させたものが倫理と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
14		16.疫学	人間集団における疾病の分布とその発生原因を研究する科学を疫学と理解する。国家試験対策問題を配布し、正答率60%を採ることができるようになる。
15		試験対策	試験対策問題の解答と解説。正答率60%を採ることができるようになる。